

A 氏邸訪問記(2021.12.15)

1. はじめに

今回の訪問は[前回の A 氏邸訪問](#)以来、ほぼ 2 年近くになります。今回の訪問の主な目的は、その後の経過の確認と Nordost のテスト CD に関連して音像の上下の位置関係が聴き分けられるかの試聴です。

2. A 氏邸のシステムの概要

A 氏邸のシステムは、前回の訪問記以降ほとんど変わっていませんが、オーディオ仲間から借用品も混ざっています。

今回は、コロナのこともあり、移動は人出の少ない時間帯を選び、A 氏邸では短時間の滞在とし、主に音像の左右、前後に加えて、上下の位置関係にも注目したソフトの試聴を主な目的としました。

音源は、Nordost CD の TRACK11~TRACK13 の試聴および関連試聴結果(6)で使用した、バッハのカンタータ 179 と 199、プロムシュテット指揮ゲヴァントハウスオーケストラによるメンデルスゾーンの Elias、および Swinging Bach などの DVD と下記の CD などです。

ARCHIV POCA-1139/40

ヘンデル メサイア

ポール・マクリーシュ指揮ガブリエルコンソート&プレイヤーズ

SONY SICCC1172

ワーグナー 管弦楽集

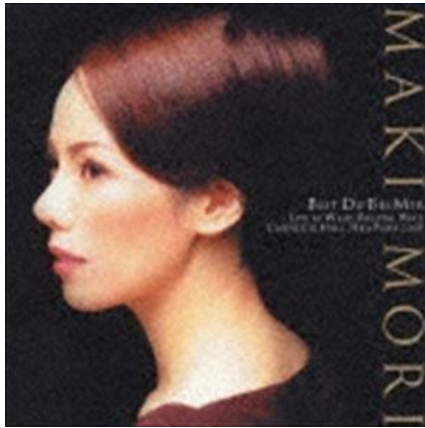
マリス・ヤンソンス指揮バイエルン放送交響楽団

S&R AVCL-25005

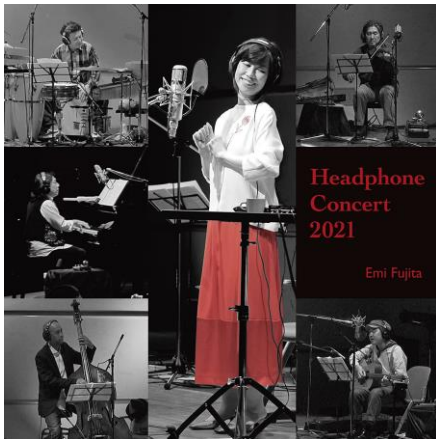
J.S.Bach あなたがそばにいたら他

森麻季 (ソプラノ)

山岸茂人 (ピアノ)



HD Impression HDI70003
Headphone Concert 21
藤田恵美



3. A 氏邸のシステムの試聴経過

最初に Nordost CD の TRACK11~TRACK13 の試聴を行いました、自宅と同様で、音像の上下の移動も左右の移動もまったく同じでした。

次に DENON の CD プレイヤーで CD を聴いていきましたが、上記のどれも CD とは思えない音がします。

特に、森麻季は昨年演奏会で聴いており、その時の印象が強く反映されています。

メサイアは、ハレルヤコーラス、ソプラノとバスのアリアのパートを聴きましたが、古楽器アンサンブルとともにステージ感や声の質感がよく出ています。

藤田恵美も Live Extreme でライブ配信された Headphone Concert 21 の演奏のライブ感がそのまま出ているようです。

DVD はパナソニックのブルーレイレコーダーから再生しましたが、A 氏邸の大画面の TV で見る画面は迫力があります。

今回のポイントである、バッハのカンタータ 179 と 199 ですが、エヴァンゲリスト

のテノールとソプラノのARIAは高い位置での説教壇からの歌唱で、バロックアンサンブルとの上下の位置関係が明瞭です。

Elias では、ソプラノはそれほど高い位置での歌唱ではありませんが、それでもソプラノとオーケストラの位置関係はしっかり出ています。同じDVDに収録のムローヴァのシャコンヌもストラディヴァリウスらしい音色です。

CDの森麻季と藤田恵美同様、カンタータと**Elias**のソプラノの歌唱では情緒的な表現力が伝わってきます。

Swinging Bach のDVDについては、市庁舎のバルコニーからの**German Brass**、ステージからのクインテセンスサクソフォンクインテット（写真）、ジャック・ルーシェ・トリオ、ボビー・マクファーレンのスキヤットなどを視聴しましたが、どれもライブ収録らしいリアルさが出ていました。**German Brass**については、マイクの収録の関係からか、自宅と同様、高い位置での演奏のように感じられませんでした。



最後にA氏のレコーダーの録画からアイダの凱進行進曲を視聴しましたが、高い位置から演奏される、お馴染みのアイダトランペット（写真）の演奏はオーケストラや合唱より高めの位置にあるように聴こえました。



4. まとめ

どのソフトも水準以上の再現がなされていましたが、ライブ収録ものでは、ライブ感が良く出ており、音像の上下の位置関係も、収録の状況を忠実に再現している印象でした。

以上